

# 笑顔のひろば

笑顔のひろば「第19号」

平成24年9月20日

発行

川崎協同病院広報委員会

川崎市川崎区桜本 2-1-5

TEL:044-299-4781(代)

FAX:044-299-4788

## 震災を忘れない 気仙沼 唐桑地区支援

平成二四年五月の終わりに宮城県気仙沼に行ってきました。

これは、我々の病院も加盟する神奈川県民医連（民主的医療機関連合会の略）が主催したボランティアツアーです。神奈川県民医連の仲間の医療生協かながわが先行しておこなっていたものに乗車・・・と言って悪ければ拡大されたものです。ただし、現地での夕食会で、北央医療生協の方から、実は自分たちの方が唐桑地区とは古くから縁があるんだという楽しいアピールもありました。七四人の職員、組合員さん、歯科の奨学生が二台のバスに分乗し出発しまし

た。川崎医療生協からも職員や組合員さんが多く参加しました。日頃から何かボランティアをしたいと言っていた私の妻も良い機会だと言って同行しました。

横浜を夜一〇時に高速バスで発ち、翌朝気仙沼着。そのまま唐桑地区の漁港にむかい午前中はかき養殖の手伝い。種かきのくつついたホタテ貝を一列にロープにはさみ込む作業です。これを海に沈めて成長を待ちます。網元で夫妻のユーモアあふれる説明はとても楽しいものでした。作業をはじめの前には現地をおそった津波の様子をお聞きしました。午後には海岸漂着物の片付けです。木片、プラスチック片から、ドライヤー、ゲーム機器、壊れたストローまでありました。

夜には大島に渡りました。大島は津波にのまれ、かつ重油により山火事が起こったとのことでした。翌日はランフェスタと名付けられた島一周マラソン大会のお手伝いをさせていただきました。全国から参加した

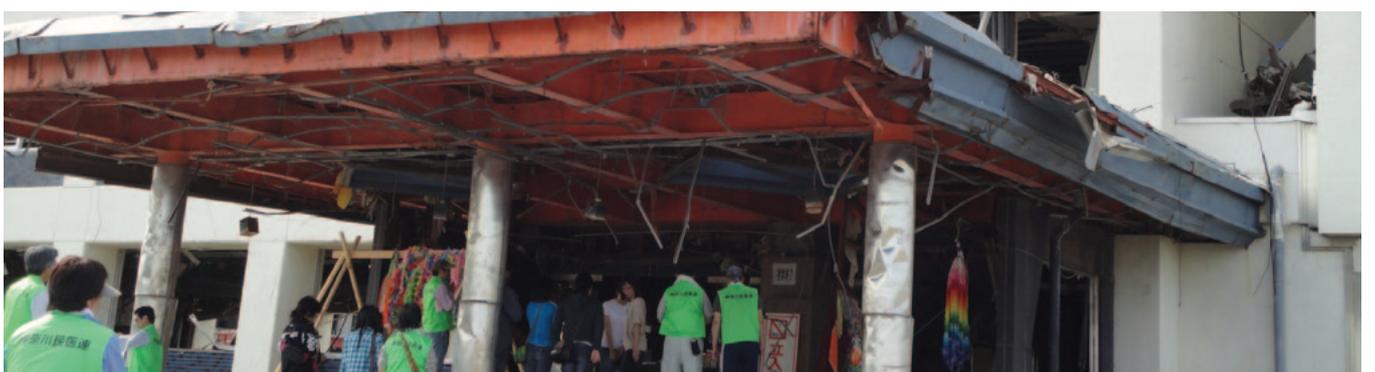
人たちの受付案内、荷物管理などを行いました。午後は気仙沼の被災地をまわり、その後二階建てプレハブの復興商店街で昼食を食べ、買い物しました。食事はおいしかったです。商店街の品そろえは当然ですが多くはなく、考えていたより買い物はできませんでした。

震災後すぐに、当院を中心に川崎医療生協から医療を中心としたボランティアを派遣し活躍しました。その後はがれきや土砂の片付けなどに、



川崎協同病院副院長  
安西 光洋

た。川崎医療生協からも職員や組合員さんが多く参加しました。日頃から何かボランティアをしたいと言っていた私の妻も良い機会だと言って同行しました。



## 言語療法室

### 新たに二部屋開設

# 言語療法室からのお知らせ

リハビリテーションの必要性が社会的に高まるなか、川崎協同病院では昨年一〇月に回復期リハビリテーション病棟を拡大しました。これに伴い今年の五月から四階に言語療法室が二部屋開設され、従来の二部屋と合わせて四部屋となりました。言語聴覚士も三人から五人に増員されました。

これによって、地域のニーズに基づいた安全で信頼される医療を、より幅広く実践することが可能となり、他医療スタッフとの連携もより迅速に行えるようになりました。

今後は、回復期リハビリテーション病棟のみならず、一般病棟の患者様のニーズもより幅広く受け入れ、治療できるようにすると同時に、人



員が増員されたことにより、専門スタッフによる患者様の治療内容を共有し、よりよい言語療法ができるように努力してまいります。

さらなる高齢化を迎えるにつれ、脳卒中などが増すことが見込まれていることから、今以上のリハビリテーションの必要性が望まれることは必須でしょう。言語聴覚士のみならず、他のリハビリテーションスタッフとともに常に新しい知識の吸収に努め、技能の向上を図ります。他の医療機関さん、福祉施設さん等とも連携を深めながら、患者様から信頼される医療を目指してまいります。

リハビリテーション科  
言語聴覚士 伊藤光太郎

## 笑顔あふれる高校生

### 夏の一日看護体験

初めて着る真っ白な白衣に、照れ笑いを浮かべ、そして少し緊張しながら病棟へと向かう高校生の目は、優しさで力強さに溢れキラキラと輝いていました。

川崎協同病院では毎年、高校生や社会人の方を対象とした夏の一日看護体験を行っています。今年は七月二三日から八月二日までの七日間を病院の体験日とし、

各診療所でも学生を受け入れました。例年に比べ、看護体験の参加希望者が多く一三七人もの方からお申し込み頂きました。

午前中は病棟体験になっており、担当の看護師の業務を見学し、配膳や食事介助などを体験した学生もいます。私が様子を見に病棟へ行ったとき、たまたま患者さんが体験中の高校生の手をギュッと握っている光景を目にしました。会話をしている訳ではなかったのですが、その姿を見た瞬間に心がポカポカと温かくなるのを感じました。

看護師の仕事は年々忙しさに拍車がかかっており、日常業務に追われてしまうのが現状です。そ



んな中で、体験に来てくれた人たちが患者さんの手を取り、ゆっくり目を見てお話をしてくれることが、何よりも患者さんの笑顔を引き出す鍵になることを実感しました。

患者さんが笑顔だと、体験する側も笑顔になり、その光景を見た職員もまた笑顔になれる、そんな笑顔あふれる看護体験こそ、私たち学生担当の自慢です。参加してくれたみなさん、患者さん、そして病棟スタッフみなさんに感謝の気持ちでいっぱいです。たくさん笑顔がありました。ありがとうございました。

看護学生担当事務 山西未希



# リハビリテーション 高校生一日体験を終えて



八月一日に作業療法士を志している高校生の一日体験がありました。作業療法士を志しているとはいえ、まだ高校生ということもあり、作業療法の具体的な内容というよりも、病院内でのリハビリテーションの雰囲気を感じてもらうことを中心に、施設の説明などを行いました。

初めての臨床の場ということもあり、みんな序盤は緊張しているようにも見えましたが、徐々に笑顔も増え始め、とてもいきいきとした表情で取り組んでいました。患者様とも積極的にコミュニケーションをとることができ、人と関わる楽しさも感じてくれたようです。

また、実際の臨床の現場を体験したことで、想像していた作業療法と実際の作業療法の違いを感じ、さらに作業療法について考えを深めてくれたと思います。

私自身も、一日説明をしたことで作業療法という職種について考え直すきっかけができました。担当した自分も勉強になる、とても貴重な時間になりました。

リハビリテーション科  
作業療法士 平野 航希



## 地域社会のたからもの

# 医師のたまご達が体験

八月一日から九日までの五日間、恒例の高校生一日医師体験がありました。川崎協同病院では四人ずつ計二〇人の医師を目指す生徒たちが体験にやってきました。生徒たちは初めて入る医局に緊張の面持ち！朝礼では緊張に上ずる声で居並ぶ医師たちを前に自己紹介をしました。中には『今年は必ず合格します！』という予備校生の合格宣言も飛び出します。

院内見学で各科を回り、初めて入る手術室に『おゝ』と感嘆の声がもれます。巨大な検査機器や病理組織標本づくり、自分で描出するエコー画像など、全てが初めての経験です。

医学三講座では血圧測定を体験しました。なかなか聞き取れない拍動に『ん？心臓動いてる！？』の言葉に笑い声が響きました。お昼は研修中の医師に質問しながらのランチタイム。『受験勉強はどうしたら…』『大学は忙しいと聞きました…』『医師になって一番きつかったのは…』など受験のことから医師になってからのことまで幅広く質問が出ます。医師もひとつひとつ丁寧に答えます。

感想では『歩き通して疲れたけど受験へのモチベーションがあがった！』と夢にむかっているやる気につながったようです。

医師は地域社会の大切な「宝物」と考えれば、彼らは宝物のたまご達です。数年後、彼らが今回の経験を活かして実際に医師として働く姿を願いながら今年の医師体験を終えました。

医学生担当 木下 博志  
医師事務室



# INFORMATION

## 病気や入院にともなうあらゆる心配事の相談窓口として ～地域連携室相談課が対応します～

相談課は、地域連携室の中にある部門で、ソーシャルワーカー(SW) 4人体制で業務にあたっています。

病気やケガをすると、それまで健康な時にはなかったような心配事や不安が、色々出てきます。また、入院などがきっかけで、介護や経済的なことなど様々な支援が必要になることがあります。

相談室ではこのような時に、専門のソーシャルワーカー(社会福祉士など)が患者さんやご家族のご相談をお受けしています。

院内の職員(医師・看護師・リハビリスタッフなど)や、行政など他の関係機関とも連携を取りながら、本人や家族の皆様と一緒に解決できる方法を考えていきます。お受けした相談の秘密は厳守で、相談についての費用は一切かかりません。安心してご相談ください。

### ◆例えばこんなときご相談ください◆

- ・入院費の支払いや、今後の生活費など経済的な心配がある。
- ・病気のため収入が減った、仕事ができなくなった。
- ・退院と言われたが、退院後の生活や介護について不安がある。
- ・日常生活で介護が必要になってきた。
- ・家で介護するのは難しい。施設や病院を紹介して欲しい。
- ・医療保険や介護保険、身体障害者手帳など社会保障制度について知りたい。

相談受付時間	月曜～金曜 9時～17時15分 土曜 9時～12時30分 (ただし、5月1日、12月29日～1月3日はお休み)
場所	1階地域連携室
連絡	044-299-4781 (代表) 地域連携室相談課 課長 高橋 靖明

### 担当職員からひとこと

★この度、京町地域包括支援センターより地域連携室相談課に異動になりました。7年半ぶりの病院は、職員や環境、また医療情勢も大きく変わっていて、まだ戸惑うことばかりです。私自身まだ新しい業務に慣れておらず日々勉強中ではありますが、よろしくお願ひします。

(課長 高橋 靖明)



★この仕事をはじめてもうすぐで1年が経ちます。毎日が慌しくあつという間に時間が経ちましたが、どんなことが達成できたかなと振り返っています。今後ワーカーとしての目標を立てて頑張っていきたいと思ひます。

(辻井 奈々)



★育児休暇を頂き、7月に復帰しました。仕事&育児の両立に不安はありますが、楽しみでもあります。子供とも患者様とも、共に歩み、成長し続けられるよう頑張ります。

(手呂内 裕美)



★ソーシャルワーク実習を受け入れてもらったことが縁で今年の4月からこの仕事に就いています。患者さんの想いにより添った支援ができるように、まずは相手の気持ちを意識しながら仕事に取り組んでいきます。

(奥成 良平)



梅雨明けした七月以降、県内では熱中症で搬送される人が急増しました。前年の四倍強とのこと。最高気温が三十度を超える真夏日は八月一杯続き、九月も平年より高い予想です。昨年の震災以後、原発問題、電気料金の値上げなど社会的に大きな問題がつついています。会社や個人の節電の努力でこの夏は乗りきることができました。しかしながら、必要な人にはガマンさせることなく手が差し伸べられたらと思います。

働き盛りの若い世代も暑くても「大丈夫だ」など過信せず、休養や水分をとり、九月になったとはいえ熱中症には気を付けていきましょう。この夏は、国会では社会保障と税の一体改革、消費税増税法案と熱い議論が続き、また、八月のオリンピックの応援に寝不足になるほど熱くなりました。秋以降も政治の世界では、アツい日が続きます。

今回の号では夏の高校生一日体験を特集していますが、そういえば私もこの高校生での体験が今日の仕事の始まりでした。看護学生時代も毎年協同病院にきていました。ツライ実習とは違い楽しく通っていたことを思い出し、貴重な体験だったのだと改めて感じました。これを機に自らの職業として目指してくれる若者が一人でも増えることを期待しています。ガンバレ！

地域連携室 看護師長 小森 千絵

編集後記